

農家にとっての不都合な真実

—誰が間違ったのか?—

古橋 嘉一 (静岡市)

レギュラトリーサイエンス (以下 RS) は「科学技術の成果を人と社会に役立てることを目的に、根拠に基づく確な予測、評価、判断を行い、科学技術の成果を人と社会との調和の上で最も望ましい姿に調整するための科学」と定義されている。

植物防疫の分野では、農薬の薬効、薬害試験などが RS に位置付けられている。これらの試験はその農薬が商品化されるかどうかを決定する最後の重要な試験であり、実用化のためにはその試験結果に普遍的な再現性が求められる。

しかし、現在の実施状況を見ると前述した RS の定義である、根拠に基づく予測、評価、判断が正しく行われていない事例もみられる。研究の核心である試験設計が実施者本人により作成されたものではなく与えられた通りに実施する試験であることから「ぶっかけ試験」とも揶揄され軽んじて考えられているためであろうか? その結果、農薬の不効により使用者に経済的負担を生じさせることになる。この業務に携わる企業や研究者は評価に際し、その限界を認識し謙虚さとともに誤りが認められた場合、修正する勇気を持つことも重要であろう。

果樹や茶など樹木への一定薬量での処理方法は間違った試験方法であり、樹容積の異なる苗木や樹木では普遍的な再現性は期待できない。

22年前、この研究会が設立されたのは防除法についてあらゆる分野の人達が参加し農家の使える技術について議論しようということであった。

間違った害虫防除法について話題提供し議論したい。

参考文献:

安藤喜一 (2008) ありえない話、オオカマキリの雪予想 第52回応用動昆大会講演要旨

村松 秀 (2011) 論文捏造 中央公論新社 133 p p

須田桃子 (2014) 捏造の科学者—STAP 細胞事件—文芸春秋 183 p p

大同英則・猪俣伸一・川崎美由貴・山田英一 (三井化学アグロ) 他 (2011) ジノテフラン顆粒水溶剤を用いたカキ樹幹処理法 第55回応動昆大会講演要旨

An inconvenient truth for farmers

-Who made a mistake?-

Kaichi furuhashi

(Shizuoka city)

